私たち ユースソーシャルワーカー が 都立高校生を支援します

生涯学習課には48人のYSW（就労支援系と福祉支援系）が在籍し、「自立支援チーム」として、都立学校の生徒の支援に当たっています。YSWには、様々な経験や資格を持っている方々がいます。このコーナーでは、その中から、5人のYSWを紹介します。

就労支援系

濱岡 登志子（はまおか とし こ）さん

大学卒業後、民間企業で10年間働いた後、ハローワーク障害者部門で８年勤務しました。

現在、ユースソーシャルワーカーとして不登校・中途退学未然防止、また中途退学された生徒への支援をしています。

就労支援の際には、単なる職業紹介だけではなく、生徒ができることとできないことを把握することを通じて、その生徒の長所が生かせるような職業分野を探すなどの支援をしています。その上で、生活を取り巻く環境整備、就労支援機関や福祉機関との連携調整、そして雇用促進の働きかけを企業に行うなど、今までの経験が随所に生きていると感じています。

また、前職就業中に取得したキャリアコンサルティング技能士、カウンセリング資格は、現在向き合っているケースの支援の方向性を検討するのに強みになっています。

多くの可能性を持った高校生が、自分に合った未来設計ができるように、これからも今までの知識を活用し、自己研鑽（けんさん）も図りながら、生徒やその家族と一緒に考え、支援に取り組んでいきたいと思っています。

福祉支援系

久田 忠一（ひさだ ただかず）さん

都立高校の教員を25年務めました。不登校の生徒を担任した際に、生徒が疾病のために家事ができない母親の代わりをしているなど、背景に深刻な家庭の事情があることを知りました。教師時代は、中退者を一人も出さないことが目標でした。長引く不景気による家庭の貧困や発達障害、虐待など、中途退学の要因も複雑化しています。学校の中で、個に応じた教育相談の在り方をもっと深めたいと思い、カウンセリングを学びに大学院へ進学、その後退職して、精神保健福祉士の資格で福祉事務所や病院でケースワーカーとして働きました。現在、担当している高校で生徒の相談を中心に、児童相談所や福祉事務所等の関係機関と担任との連携の調整をしています。

教員としての経験と、福祉・医療関係に知人が多いことが、私の強みです。若者の社会的、職業的自立を支援する活動は、始まったばかりですが、これからは、「自立支援チーム」の一員として、生徒のキャリア支援や、中途退学する生徒の自立の基盤づくりに積極的に取り組みたいと思っています。

YSWにはこんな人たちがいます

YSW48人のうち、就労支援系は18人、福祉支援系は30人です。

このページで紹介した方以外にも、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー、社会教育主事任用資格、教員免許、社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士等の資格を持っている方々がいます。

また、ハローワークや若者支援団体、自治体の福祉セクション、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教員等の職歴を持っている方もいます。

こうした様々な資格や経歴を持った方々が、それぞれの強みを生かして都立高校生の支援に当たっています。

福祉支援系

小﨑 大雅（こさき たいが）さん

今年の3月まで大学で福祉について学び、スクールソーシャルワーカーの実際の現場を体験しました。個に応じた支援を通じて生徒が変容していく様子を見て、学校で働くソーシャルワーカーになりたいと考えました。

高校には不登校や中途退学、進路未決定など様々な問題を抱えている生徒がいます。現在、担当している高校では、担任の先生と一緒に家庭訪問をして生徒と話したり、就職を目指す生徒と一緒に求人票を見たり、模擬面接を行ったりしています。

生徒との年齢が近く、運動が得意ということもあって、いくつかの高校で部活動に参加させていただいています。教室では無口な生徒が、部活動では活き活きと声を出しているなど、授業では見えない生徒の一面を見ることができます。

また、ちょっとした会話の中から、友人関係での悩みや学校生活に対する不安などが聞こえたりしています。フットワーク軽く生徒の中に入っていって、生徒との距離を縮めることを通じて、気軽に相談ができる関係づくりを目指しています。

福祉支援系

溝口 佐江子（みぞぐち さえこ）さん

26年間の官庁勤務を経て、大学の心理学部臨床心理学科に入学し、主に障害者心理を学びました。卒業後は、障害者の就労支援機関での就労支援や、民間企業での障害者雇用に携わり、障害者の特性に応じた環境整備、スキルの付与に取り組んできました。現在、都立高校3校でユースソーシャルワーカーとして活動しています。

都立高校には、人間関係の上での生きづらさや家庭環境の困難など、様々な問題を抱えながら就労や進学を目指す生徒が少なくありません。多くの生徒は「世の中の役に立ちたい」「働きたい」と思っているはずです。そのためには、生徒の長所を一緒に探し、その長所に本人が自信を持てるようなアドバイスを通じて、生徒の意欲を高めることが必要だと思っています。

会社で働いた経験と福祉サイドの視点の双方を生かして、職業生活を中心とした社会的な自立に向けて、「できる」体験を積み重ね、就業に対する自信の獲得等につながるような支援をしていきたいと考えています。

就労支援系

森 隆明（もり たかあき）さん

大学卒業後、アパレル業界等に従事した後、産業カウンセラーと標準キャリアコンサルタント資格を取得し、埼玉県で生活保護受給者の就労支援に従事しました。その後、地域若者サポートステーションで無業若年者の就労支援に携わりました。その中で、大学中途退学や離職等によって、一度、社会から切り離されてしまうと、支援の手が届きにくく再チャレンジする機会がなくなってしまうということを痛感し、社会の中で孤立する前の高校生の段階での支援をしたいと考えました。

現在、高校を辞めたいと思っている生徒との面談を通じて、中途退学未然防止に取り組むとともに、中途退学後の支援機関、職業訓練施設の情報提供などを行っています。

また、進路指導部と連携した模擬面接、キャリア面談、進路相談、自己理解セミナーなども実施しています。

支援に当たっては、生徒の漠然とした不安や、抱えている問題を傾聴しながら明確化し、解決の優先順位を付け、無理せずにできそうな目標と方策を一緒に考えるようにしています。本人の言葉や意思を尊重しながら、自分から行動変容できるような「動機付け」「自己肯定」できる素材（リソース）を掘り起こしたいと思っています。

紹介した皆さんの似顔絵は、生涯学習課ユースソーシャルワーカーの前田麻里さんが描いたものです。

自立支援チームによる支援事例

中途退学の未然防止

友人関係のトラブルにより教室に入れなくなり、中途退学を申し出た生徒のケース

【課題の把握】

担任、養護教諭、スクールカウンセラー、生活指導部などと情報を共有し、生徒の状況を把握、支援方針を検討

【支援の方向】

YSWとの定期的な面談などを設定し、教員と連携しながら学校生活への定着に向けた継続的な支援を実施

中途退学が決まった生徒への就労・再就学支援

出席が足りずに中途退学せざるを得なくなった生徒のケース

【課題の把握】

今後の進路について、本人の考えや思いを把握

【支援の方向】

- 学び直しを希望する場合には、学校と連携しながら再入学や転学などの支援を実施
- 就労を希望する場合には、地域若者サポートステーションや職業能力開発センターなどを紹介

不登校生徒への支援

生活習慣の乱れから不登校になった生徒のケース

【課題の把握】

担任の家庭訪問にYSWが同行して本人及び家族との面談を通じて、状況を把握

【支援の方向】

- 本人の学校に対する関心や興味を引き出しながら、YSWが学校に来ている日を伝え、登校の意欲を喚起
- 家庭に対して福祉的な支援が必要である場合は、関係機関との連携による支援を実施

生徒及びその家族が抱える課題

家族が外国籍で生活習慣の違い等から学校生活に馴染めない生徒のケース

【課題の把握】

YSWが校内のケース会議に参加し、多くの教員から生徒の状況を聞き取りながら多面的に把握

【支援の方向】

生徒や家族が抱える課題のアセスメントを行い、支援プランを学校に提示し、教員との連携の下に、学校生活への適応を支援